

外為短観レビュー 米ドル/円予想DIと日銀緩和

◆はじめに

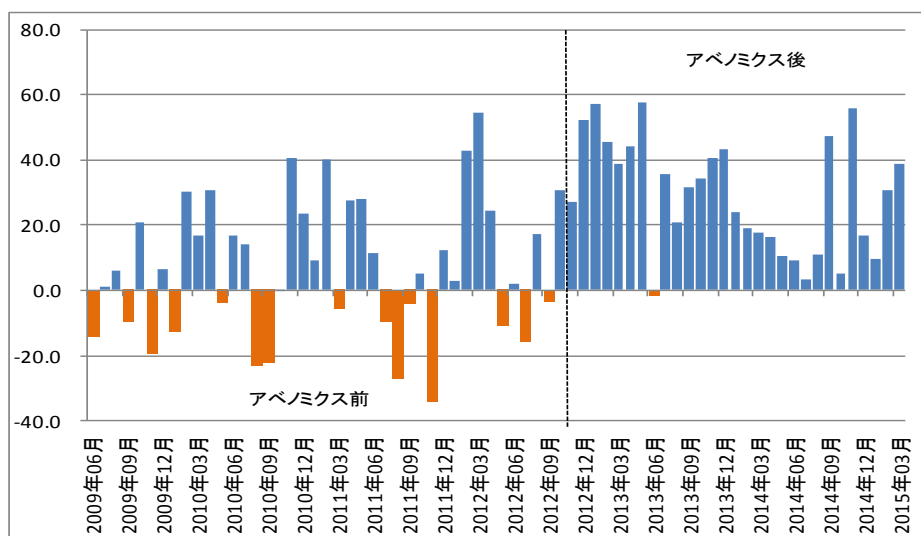
外為短観の調査は2015年3月で70回目を迎えた。この節目を機に米ドル/円予想DIの調査結果を振り返って見たい。これまでの6年弱の調査における米ドル/円予想DIの平均値は+16.4%ポイントであった。予想DIは、強気(上昇)予想の割合から弱気(下落)予想の割合を引いた数値である事から、個人投資家らはこの間、米ドル/円相場に対して概ね強気見通しを維持していたと考えられる。ただ、「アベノミクス」相場の前と後では、米ドル/円予想DIの傾向に明確な差異が現われている。米ドル/円予想DIが最も高かったのは「アベノミクス」後の2013年5月の+57.8%ポイント、最も低かったのは「アベノミクス」前の2011年11月の▲34.0%ポイントであった。それだけでなく、下記グラフで示されたように、「アベノミクス」後は以前に

比べると明らかに強気予想が増加しており、それぞれの期間における予想DIの平均値には大きな差が生じている。

◆アベノミクス以前 2009年6月～2012年10月

「アベノミクス」前の米ドル/円相場を振り返って見ると、米連邦準備制度理事会(FRB)によるリーマンショック後の金融緩和強化を背景にドル安が進行。本邦民主党政権時代の円売り介入にもかかわらず、2011年10月には75.30円台まで下落して史上最安値を記録した。その後、2012年3月には84円台へと持ち直したが、欧州債務問題の混迷などから再び円高に振れて同年9月には77円台まで押し戻された。そうした不安定な相場展開を念頭に置いてこの間の予想DIの推移を眺めると、やはりマイナス(弱気)が目立つ。「アベノ

米ドル/円予想DI推移



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

ミクス」前の平均予想DIは+7.4%ポイントとかなりプラス圏をキープしたものの、41回中16回の調査でマイナスを記録した。逆張りを得意戦略とする個人投資家だけあって、米ドル/円相場が史上最安値を更新するなど軟調に推移する中にも、なんとか強気を維持した格好だが、これだけ相場観が不安定に揺れる中では、腰の据わった押し目買いは入りにくかったものと推測される。

#### ◆アベノミクス以後 2012年11月～2015年3月

一方で、「アベノミクス」相場の開始以降に予想DIがマイナスを記録したのは2013年6月の一度だけであり、それも▲1.3%ポイントという僅かなマイナス幅であった。ほぼ全期間に渡り強気を維持したと言って良く、「アベノミクス」後の平均予想DIは+29.1%ポイントに跳ね上がる。なお、強気見通しの決め手となったのは、どうやら日銀の金融緩和であったようだ。2013年4月に黒田日銀新総裁が量的・質的緩和を発表した際は、その翌月に予想DIが過去最大となる+57.8%ポイントを記録。2014年10月の追加緩和でも翌月の調査で予想DIは+55.8%ポイントまで上昇している。

#### ◆4/30の日銀会合が注目イベントに

そこで、気になるのは日銀の「次の一手」だろう。4月1日に、アベノミクスの仕掛け人とされる自民党・山本幸三議員が「追加緩和は必要、日銀

が展望レポートを公表する4月30日の会合が良いタイミング」などと発言した事もあって、市場の一部には根強い緩和期待があるようだ。日銀の黒田総裁が追加緩和に前向きとは言えないスタンスを示しているにも関わらず、市場は総裁の「サプライズ」演出を期待しているフシすらある。米国の3月分の経済指標に弱めの結果が目立ち、6月利上げ期待が萎む中にも、米ドル/円相場が118円台後半で下げ渋るなど底堅く推移している背景には、こうした日銀緩和への期待＝円安期待があると見られ、個人投資家も、少なからずそうした期待を抱いている公算が大きい。ただしそれは、日銀が追加緩和に動かず、黒田総裁が追加緩和不要との立場を取り続けられれば、円買いが活発化する公算が大きく、個人投資家の米ドル/円見通しが弱気化するリスクをはらんでいるという事でもある。そうなると、「アベノミクス」以前のように個人投資家の相場観が不安定化する事も考えられる。また、米ドル/円相場の下支えを期待しにくくなるかもしれない。今後しばらくは、日銀の動向と合わせて、個人投資家の相場観の推移も注目されよう。(了)

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com